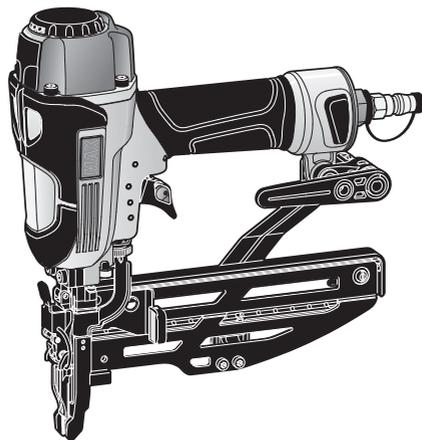


マックス釘打機 エアネイラ

TA-450F1/4MAフロア

取扱説明書

プロ用



警告

- 使用前に必ず取扱説明書を読む。
- 使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。
- 安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。
- 打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。
- 射出口を絶対に人体に向けない。
- 移動する時、使用しない時、調整・修理・ステープル装填の時は必ずエアホースをはずす。
- フック使用の時は、必ずエアホースをはずす。
- エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。
- 揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。
- 異常を感じたら絶対に使用しない。

- この取扱説明書は常時内容が確認できるよう保管してください。
- 本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

*便利メモ

お名前		商品名	TA-450F1/4MA フロア
お買い上げ日	年 月 日	製造番号	
販売店名		☎ ()	-

このたびは、マックス釘打機エアネイラをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

■表示の意味について

ご使用上の注意事項は、**警告**、**注意**、**注**に区分していますが、それぞれの意味を表します。



警告 : 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。



注意 : 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、**注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。



注 : 製品、付属品の取り扱い及びメンテナンスなどに関する重要なご注意。

■絵表示について



禁止

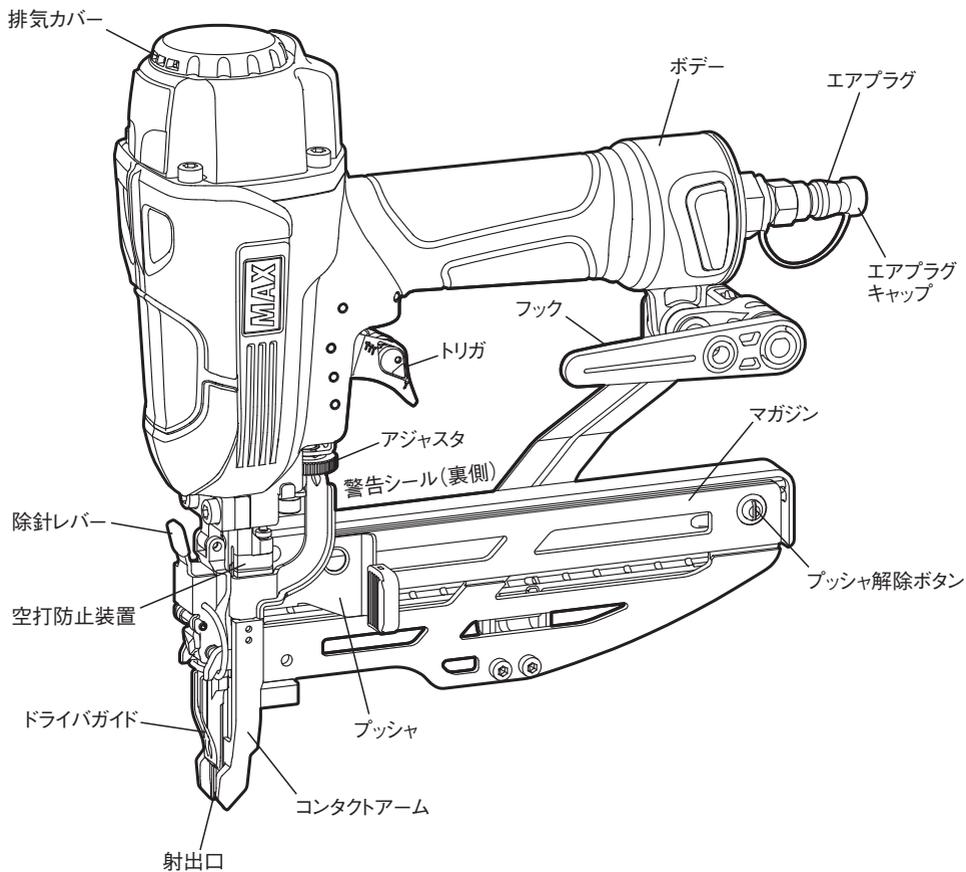
この記号は「してはいけないこと」を意味しています。この記号の中や近くの表示は具体的な禁止内容です。

目 次

1. 各部の名称	1
2. 注意 安全作業のために	2
3. 注意 安全装置について	10
4. 仕様及び付属品	12
5. 用途	13
6. 使用方法	14
7. 配管についての注意	21
8. エアホースの接続	22
9. アジャスタの調整と打込状態の確認	23
10. ステープルづまりの直し方	25
11. 性能を維持するために	26
12. 保証、アフターサービスについて	28

全国販売拠点、サービス拠点一覧

1 各部の名称



2 ▲安全作業のために

本機は、木質フローリング材を木材およびそれに類した材料に止めることを目的とした釘打機です。指定以外の用途、使用方法は重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないでください。

作業前

▲ 警告

① 使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。

ステープル打ち作業をする時、打ち損じのステープルがはね返り、眼に入ると失明する恐れがあります。作業する本人はもとよりまわりの人も必ず保護メガネを着用してください。



② 防音保護具を着用する。

ステープル打ち作業をする時、排気音や排気エアから耳を守るため、作業環境に応じて防音保護具（耳栓等）を着用してください。

②



③ 作業環境に応じた防具を着用する。

作業環境に応じてヘルメット、安全靴等の防具を着用してください。

③



2 ▲安全作業のために

！ 警告

④エアホース接続前に必ず点検する。

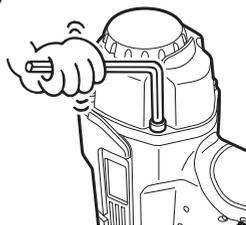
エアホースを接続する前に下記の点検を必ず行ってください。

1. ネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。
2. 各部部品が外れていたり、傷んでいないか。
3. コンタクトアームがスムーズに動くか。

(コンタクトアームの確認のときはプッシャを引き下げ、プッシャ解除ボタンに固定した状態で行ってください。)

不完全なまま使うと、事故や破損の原因となります。異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらないで、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング & サービスファクトリー(株)へ、お買い求めの販売店を通じて、点検・修理をお申し付けください。

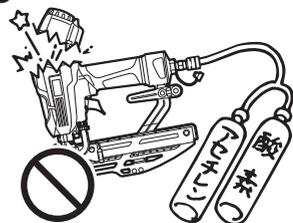
④



⑤エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

本機はエアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス(例:酸素、アセチレン等)を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、エアコンプレッサ以外は絶対に使用しないでください。

⑤



禁止

⑥エアホース接続の時には必ず厳守する。

エアホースを接続するときは誤って作動させないよう下記のことを必ず守ってください。

1. トリガに指を掛けない。
2. コンタクトアームに触れない。
3. コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
4. 射出口を絶対に人体に向けない。

⑥



禁止

2 ▲安全作業のために

▲警告

⑦エアホース接続時には必ず確認する。

使用前にはステーブルを装填しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。

1. エアホースを接続しただけで作動音がしないか。
2. エアもれや異常音がしないか。

エアホースを接続しただけで作動したり、エアもれや異常音がある場合は故障しています。そのまま使うと事故の原因となりますので、絶対に使用しないでください。異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらないで、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング & サービスファクトリー(株)へ、お買い求めの販売店を通じて、点検・修理をお申し付けください。

⑧安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

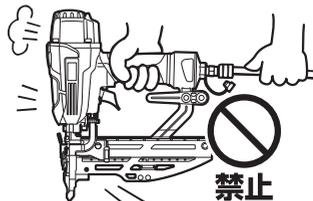
使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。ステーブルを装填しないでエアホースを接続して確認してください。(11 ページ参照)

※下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

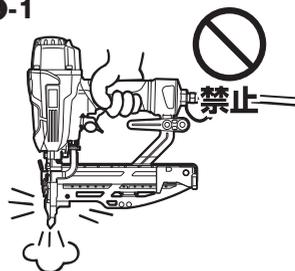
1. トリガを引いただけで、作動音がある。
2. コンタクトアームを対象物に当てただけで、作動音がある。

異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらないで、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング & サービスファクトリー(株)へ、お買い求めの販売店を通じて、点検・修理をお申し付けください。

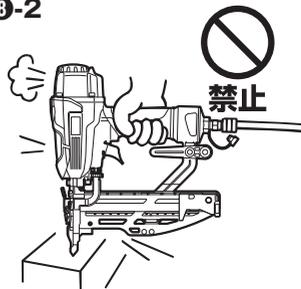
⑦



⑧-1



⑧-2



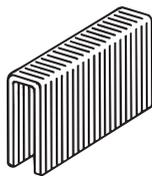
2 ▲安全作業のために

！ 警告

⑨指定ステープルを必ず使用する。

指定されたステープルと異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となりますので、必ず指定のステープルをご使用ください。(12 ページ参照)

⑨



⑩作業場所を常に整理する。

作業場所が乱雑だとつまづくなどして思わぬ事故の原因となります。作業場所は常に整理整頓をして安定した姿勢で作業を行ってください。

⑩



作業中

！ 警告

①使用空気圧を必ず守る。

本機の使用空気圧範囲は0.5～0.8MPa(約5～8kgf/cm²)です。対象物によりその範囲内で調整し使用してください。約0.8MPa(約8kgf/cm²)を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

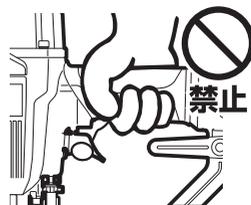
①



②打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。

トリガに指をかけたまま本機を取り回し、誤って発射した場合は思いがけない事故につながります。ステープルを打つ時以外は絶対にトリガに指をかけないでください。

②



2 ▲安全作業のために

▲警告

③射出口を絶対に人体に向けない。

射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。また、射出口付近に手足等を近づけての作業は危険ですので、絶対に行わないでください。同時に打ち損じたステープルが人に当たらないよう作業中はまわりの人に注意をはらってください。



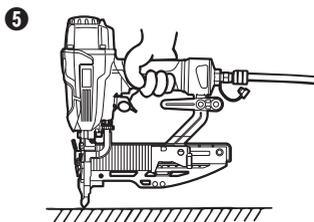
④向い合わせのステープル打ちは絶対にしない。

向い合ってステープル打ち作業をすると、打ち損じたステープルが前の作業者にあたり、思わぬ怪我をすることがありますので、向い合わせのステープル打ちは絶対にしないでください。



⑤射出口を確実に対象物に当てる。

射出口を確実に対象物に当てないと、一度打ったステープルや木の節などに当たった場合ステープルがはねたり、それたりして大変危険です。また、本機が強く反発することもあり危険ですから、射出口を確実に対象物に当ててください。



⑥揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

本機やエアコンプレッサを揮発性可燃物（例：シンナー、ガソリン等）のそばで使うとステープル打込時の火花による引火や、空気といっしょに吸入圧縮され、爆発の危険を伴いますので、揮発性可燃物のそばでは絶対に使用しないでください。



2 ▲安全作業のために

！ 警告

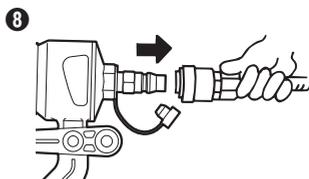
⑦移動する際は、必ずエアホースをはずす。

エアホースを接続した状態でトリガを引いたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をし、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。移動する際は、エアホースをはずしてください。



⑧フック使用の時は、必ずエアホースをはずす。

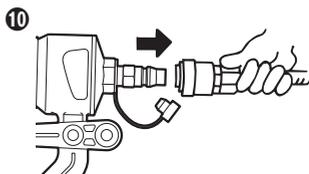
フック使用の時は、必ずエアホースをはずしてください。



⑨落下やそれに類する衝撃を機械本体に与えた場合、安全装置等が正常に作動する事を確認してから作業を再開する。

⑩作業中断時は必ずエアホースをはずす。

作業中のステープル装填、調整及びステープルづまりを直すときは誤ってステープルを発射すると危険ですから、必ずエアホースをはずしてください。



⑪異常を感じたら絶対に使用しない。

作業中に本機の調子が悪かったり、異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらないで、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング & サービスファクトリー(株)へ、お問い合わせの販売店を通じて、点検・修理をお申し付けください。



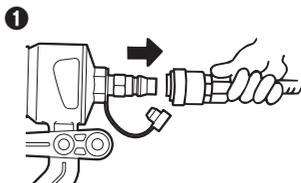
2 ▲安全作業のために

作業後

▲ 警告

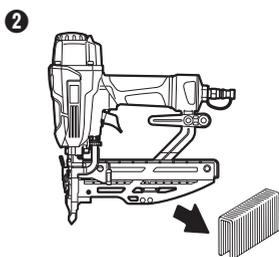
①作業終了時には、必ずエアホースをはずす。

作業終了時には、必ずエアホースをはずしてください。



②作業終了時には必ずステープルを抜き取る。

ステープルをマガジン内に残しておく、次に使用するときうっかり手を触れたり、誤って作動させた場合、思わぬ事故につながる可能性があります。作業終了時には必ずマガジン内のステープルを抜きとってください。



③本機を絶対に改造しない。

本機を改造すると、本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

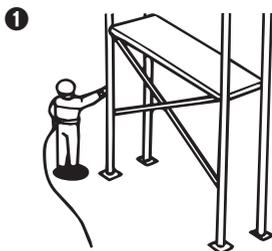


屋外作業について

▲ 警告

①足場の安全性を充分に確認する。

足場を使っての高所作業の場合、ステープル打ち作業中に落ちることのないように充分足場の安全性を確認してください。



2 ▲安全作業のために

警告

②エアホースの確保。

高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに必ず固定箇所を作ってください。これは不用意にホースが引っぱられたり、引っかかったりしたときの危険を防ぐためです。また、ホースのたるみやねじれないように注意してください。



③直射日光をさける。

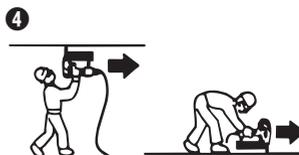
本機やエアセット、エアコンプレッサは直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。また、エアコンプレッサはできるだけ日陰に設置して使用してください。



打ち方

④水平面のステーブル打ち

前進姿勢でステーブル打ち作業を行ってください。安全で疲労が少なく、正確で速い作業ができます。後退しながらの作業は足をとられるなど危険です。



⑤垂直面のステーブル打ち

本機を手の届く最も高いところまで差し上げ、上から順に下へステーブル打ち作業を行ってください。疲労の少ない作業ができます。

※内、外壁の同時打ちは絶対にしないでください。



⑥傾斜面のステーブル打ち

下から上に向かって前進姿勢でステーブル打ち作業を行ってください。上から下に後退すると足を踏みはず危険があります。

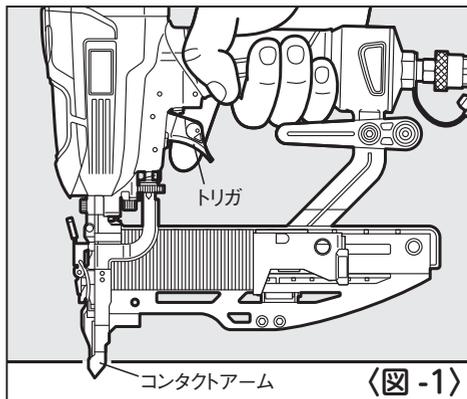


3 ▲安全装置について

ステープル打ち作業の安全を確保するため、本機には次のような安全装置がついています。

●メカニカル安全装置

これはコンタクトアームとトリガが同時に作動しないと発射しないメカニズムです。つまりトリガを引いただけではステープルは発射せず、また、コンタクトアームを打込対象物に当てただけでもステープルは発射しません。コンタクトアームを対象物に当たる動作とトリガを引くという動作が重なってはじめてステープルは発射されます。 〈図-1〉



▲ 警告

●安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。ステープルを装填しないでエアホースを接続して確認してください。

※下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

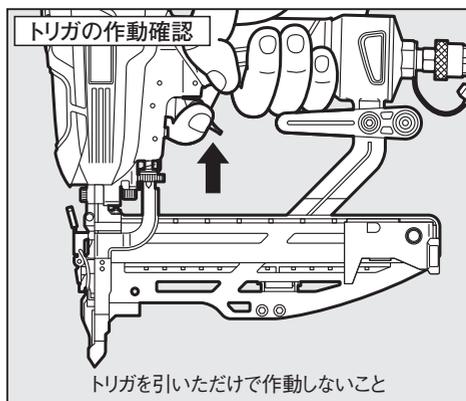
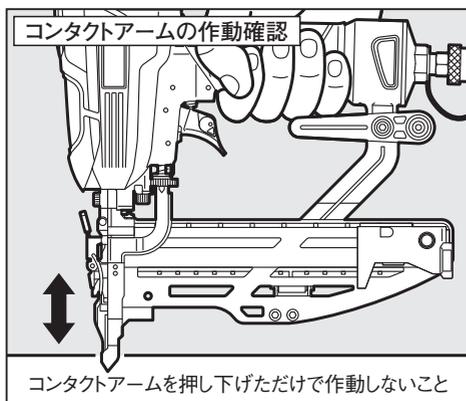
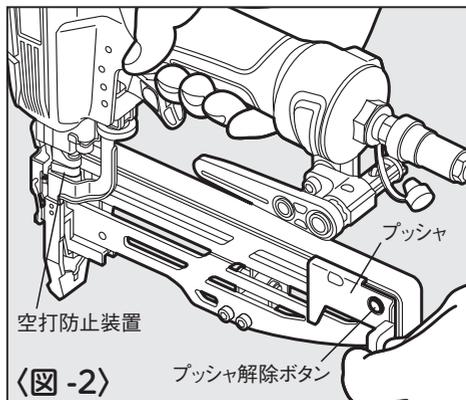
1. トリガを引いただけで、作動音がする。
2. コンタクトアームを打込対象物に当てただけで、作動音がする。

異常のある場合は、決してご自分で修理をなさらないで、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング & サービスファクトリー(株)へ、お買い求めの販売店を通じて、点検・修理をお申し付けください。

3 ▲ 安全装置について

※本機は、空打防止装置を解除しないとコンタクトアームは作動しません。安全装置の確認をする場合やコンタクトアームの動き具合を確認する場合は、ステープルを装填しないでエアホースを接続し、プッシャを引き下げ、プッシャ解除ボタンに固定した状態で行ってください。

〈図-2〉

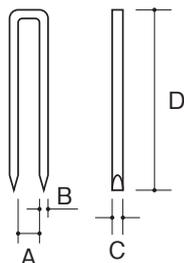


4 仕様及び付属品

商 品 名	マックス釘打機エアネイラ
商 品 記 号	TA-450F1/4MA フロア
バルブ機構	ヘッドバルブ方式
ステーブル送り機構	プッシュバネ送り方式
マガジン形式	上入れプッシュ方式
寸 法	(H) 280 × (W) 78 × (L) 269 mm
質 量	1.5 kg
ステーブル装填数	1 連 (84 本)
使用空気圧範囲	0.5 ~ 0.8MPa (約 5 ~ 8kgf/cm ²)
使用エアホース	内径 7mm 以上、長さ 30m 以内
使用オイル	タービン油 2 種 ISO VG32 (JIS K 2213)
安全装置	メカニカル方式
付 属 品	平打ちアタッチメント、キャリングケース、取扱説明書 ジェットオイラ (油入)、保護メガネ、六角棒スパナ (4mm)

〈使用ステーブルサイズ〉

(単位：mm)



ステーブル	A	B	C	D	先端形状
425MA	4	1.1	1.3	25	チゼル ポイント 
425MA フロア	4	1.1	1.3	25	
428MA	4	1.1	1.3	28	
432MA	4	1.1	1.3	32	
432MA フロア	4	1.1	1.3	32	
438MA	4	1.1	1.3	38	
438MA フロア	4	1.1	1.3	38	
445MA フロア	4	1.1	1.3	45	
450MA フロア	4	1.1	1.3	50	

5 用途

●主な用途

- ・各種フローリング施工
- ・腰板止め
- ・床捨て張り止め
- ・ベニヤ板止め 等

●適応フローリング材

- ・複合(合板)フローリング材+(中間材)+床下地材(根太、合板、パーティクルボード等)
 - ・単層(ムク)フローリング材+(中間材)+床下地材(根太、合板、パーティクルボード等)
- ※材料、厚さ、組合せによっては打ち込めない場合があります。

⚠ 警告

- 施工については、フロア材メーカーやハウスメーカーの施工・取扱説明書等の指示に従い行う。

注

- 部材の硬さ(単層フローリング材)や厚さの組合せによっては打ち込めない場合があります。また、使用空気圧が低いと適正な打込み状態を得られない場合(ステープル浮き等)があります。試し打ちにて打込確認の上、ご使用ください。

6 使用方法

使用前に本機とエアコンプレッサを接続しないで使い方を覚えてください。

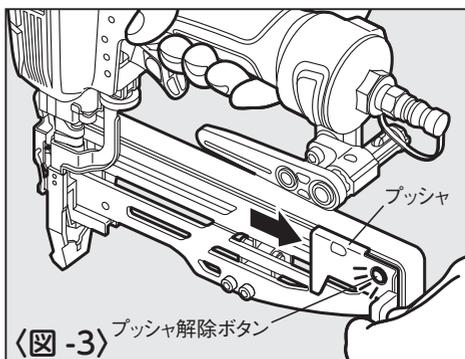
【ステープルの装填方法】

⚠ 警告

- ステープルを装填する時は、必ずエアホースをはずす。

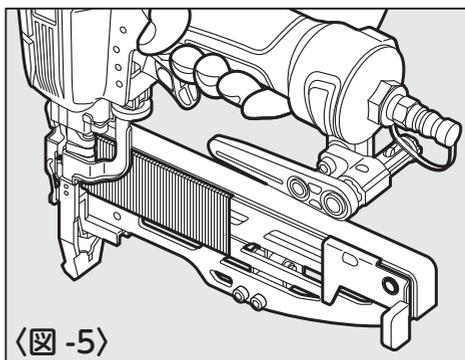
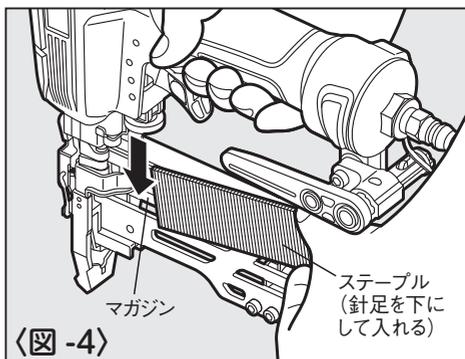
手順

- 1 エアホースをはずします。
- 2 プッシャを引き下げ、プッシャ解除ボタンにひっかけ、固定します。 〈図-3〉

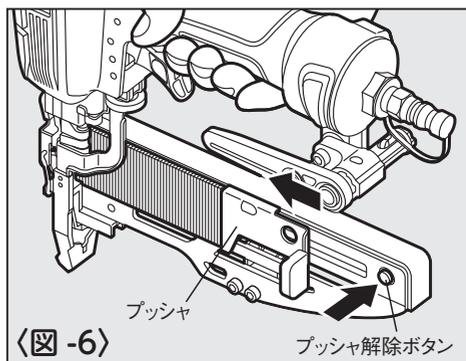


- 3 ステープルの足を下にしてマガジン内に入れます。 〈図-4〉

この時、ステープルが奥までしっかり入っており、水平に装填されていることを確認してください。 〈図-5〉



- ④ プッシャ解除ボタンを押して、プッシャを解除してください。 〈図-6〉



注

- プッシャを解除する時は、手で押さえながらゆっくり戻してください。

【打ち方】

本機はステープル打ち作業の内容によって効果的な使い方ができるよう「単発打ち」と「連続打ち」を切り替えることができます。

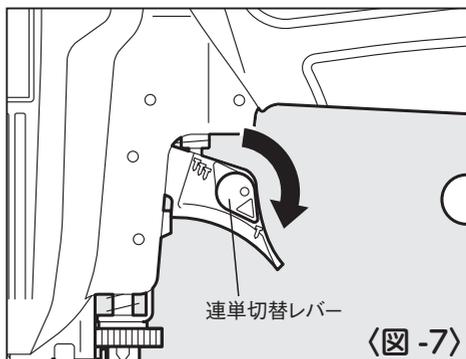
単発打ちの操作方法

単発打ちとは、コンタクトアーム先端を打込対象物に押し当ててからトリガを引く操作でステープルを1本しか打たない打ち方です。主にサネ打ちなどの斜め打ち、又ステープル肩を面いちに合わせたり、仕上げを重視する釘打作業に適しています。

※この打ち方では、コンタクトアームを対象物に当てたまま連続して打つ、引きずり打ちはできません。

手順

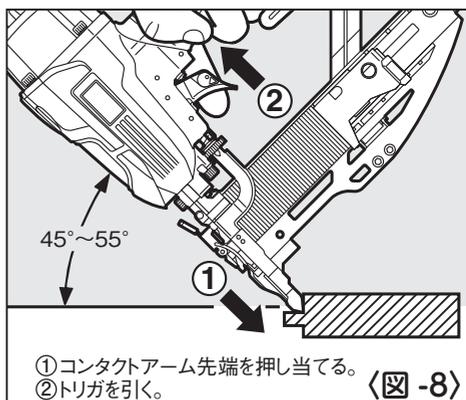
- ①エアホースを外します。
- ②トリガ部の連単切替レバーを裏から押し上げ、単発側にセットします。〈図-7〉
- ③エアホースを接続します。
- ④ステープルを打とうとする箇所にコンタクトアーム先端をしっかり押し当ててからトリガを完全に引いてください。



〈図-8〉

⚠ 注意

- サネ打ち作業は45°から55°の角度でお使いください。それ以外ではフロア材を傷める場合（膨らみ、板割れ、破損等）があります。
- フロア材メーカーやハウスメーカーより指定がある場合には、施工指示に従って施工してください。



※トリガを引いたまま再度コンタクトアームを対象物に当てたり、コンタクトアームを対象物に当てたまま再度トリガを引いても、ステープルは発射されません。

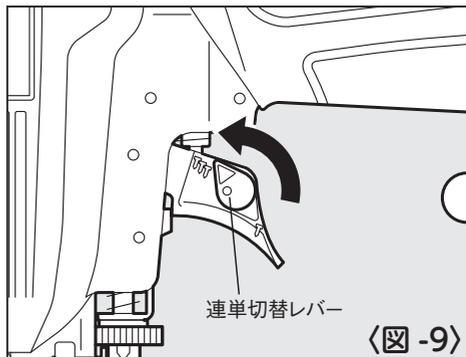
トリガから指をはなし、コンタクトアームを対象物からはなしてから④の動作を繰り返し行ってください。

連続打ちの操作方法

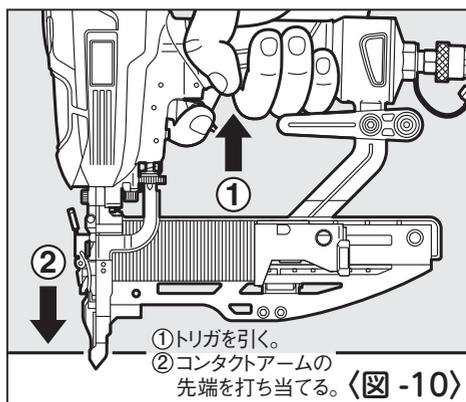
連続打ちとは、トリガを引いたまま打込対象物にコンタクトアーム先端を打ち当てる操作をくり返すことで連続的にステープル打ち作業ができる打ち方です。主に床・壁・捨て張り、ベニヤ板止めなどの下地打ちのときに適しています。

手順

- ①エアホースを外します。
- ②トリガ部の連単切替レバーを裏から押し上げ、連続側にセットします。〈図-9〉
- ③エアホースを接続します。



- ④トリガを引いたままステープルを打とうとする箇所にコンタクトアーム先端を打ち当てるだけで連続打ち作業ができます。〈図-10〉

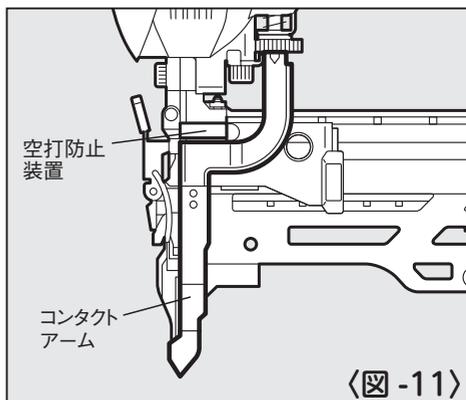


注

- 打ち込み時にコンタクトアームを強く押し付け過ぎると、先端部からエア漏れし、ピストンが戻りきらずにステープルの送り不良となる場合がありますので注意してください。

空打防止装置について

本機には空打防止装置がついています。装填されたステープルが無くなるとコンタクトアームが押し上げられなくなり、打てなくなります。続けてお使いになる場合は、ステープルを補充してください。〈図-11〉



注

- コンタクトアームを部材に当てたまま、コンタクトアームを押し上げた状態で打ち続けますと、空打防止装置は働きません。必ず1回毎にコンタクトアームを部材から離して使用してください。

⚠ 警告

- 故意に空打ちを絶対に行わない。
故意に空打ちを行うと、機械の破損や思いがけない事故につながる可能性がありますので、絶対に行わないでください。

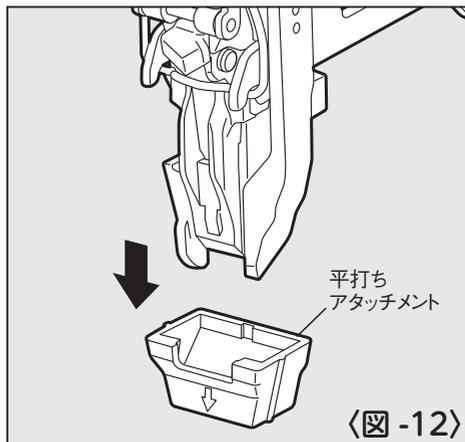
【平打ちアタッチメントの使い方】

⚠ 警告

- 平打ちアタッチメント着脱の際は、必ずエアホースをはずす。

平打ちする場合、対象部材が柔らかくコンタクトアームを押し当てた時に傷をつける恐れがある時は、付属品のアタッチメントをコンタクトアームの先端に取り付けてご使用ください。

〈図-12〉



【フックについて】

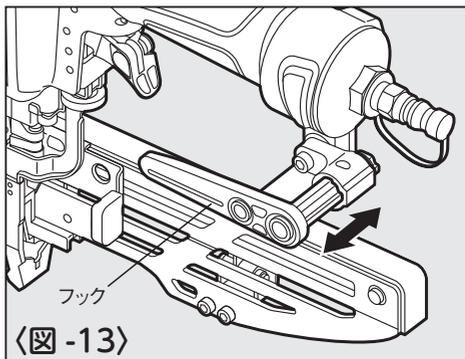
⚠ 警告

●フックの操作・取り付け・取り外しの際は、必ずエアホースをはずす。

〈フック幅の変更〉

フックをスライドさせる事でフック幅を変える事ができます。 〈図-13〉

※キャリングケース収納時はフック幅を小さくした状態で収納してください。

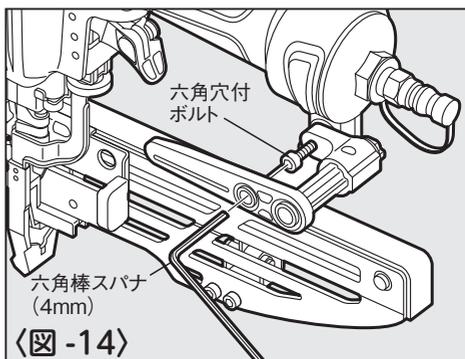


〈フックの方向の変え方〉

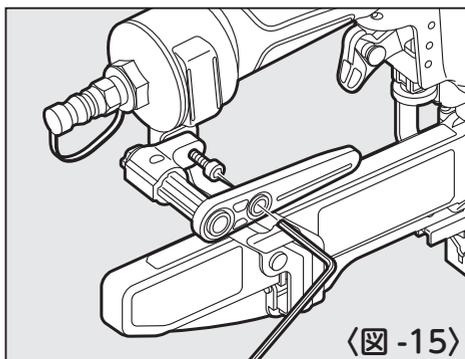
フックは本体右側に取り付ける事もできます。

手順

①六角穴付ボルトを六角棒スパナ (4mm) はずします。 〈図-14〉



②フックを本体右側に取り付け再度六角穴付ボルトを取り付けます。 〈図-15〉

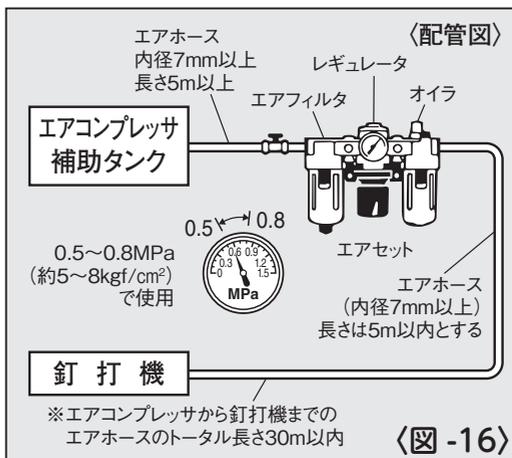


7 配管についての注意

警告

●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

- ①動力源は必ずエアコンプレッサをお使いください。高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）は絶対に使わないでください。
- ②エアセットはできるだけ本機1台に1セット取付けるようにしてください。
- ③エアホースは内径7mm以上、長さ30m以内で使用してください。エアセット使用時は、エアセットから釘打機までのエアホースを内径7mm以上、長さ5m以内で使用してください。



8

エアホースの接続

⚠ 警告

●エアホース接続の時は必ず厳守する。

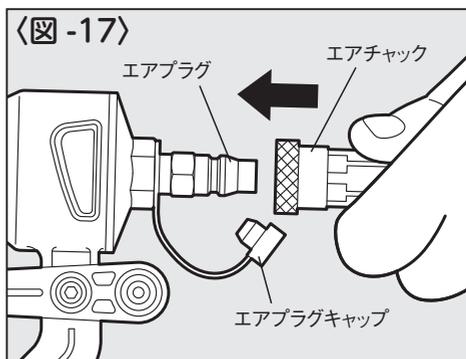
エアホースを接続する時は誤って作動させないように下記のことを必ず守ってください。

1. コンタクトアームに触れない。
2. コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
3. 射出口を人体に向けない。

手順

- ①エアプラグからエアプラグキャップをはずします。
- ②エアプラグにエアホースのエアチャックを接続します。

〈図 -17〉



⚠ 警告

●作業中断時は必ずエアホースをはずす。

9 アジャスタの調整と打込状態の確認

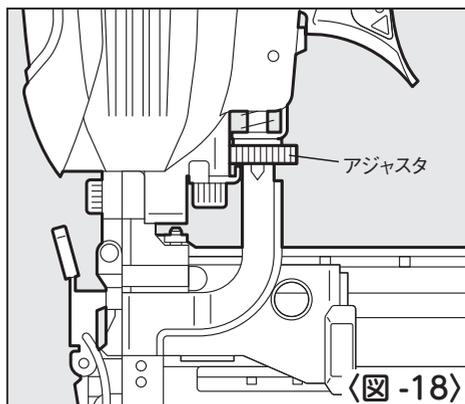
本機には打込深さを調整できるアジャスタが装備されています。打込みすぎは極端な保持力の低下やフロア材を傷める場合（膨らみ、板割れ、破損等）があります。作業の際には打込状態を確認して、アジャスタで深さを調整してください。〈図-18〉

⚠ 警告

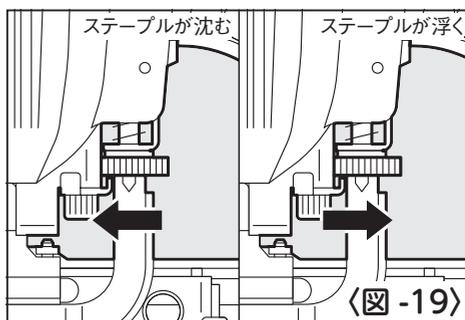
- 調整の時は必ずエアホースをはずす。

手順

- ①エアホースをはずします。
- ②ステープルを装填します。
- ③エアコンプレッサの圧力を 0.6MPa（約 6kgf/cm²）にセットします。
- ④本機にエアホースを接続します。
- ⑤アジャスタの調整（ステープルの打込調整）の前に一度テスト打ちしてください。打込みたい深さを確認します。

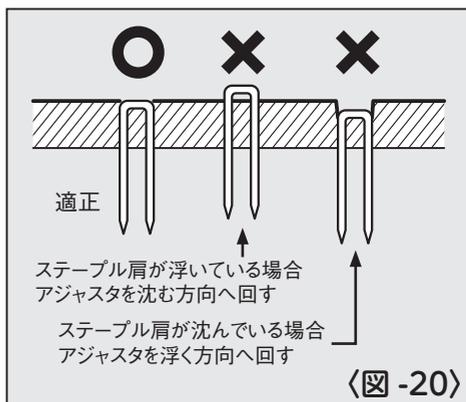


- ⑥エアホースをはずします。
- ⑦ステープルを取り出します。
- ⑧アジャスタを回し調整します。〈図-19〉
※アジャスタを1回転させると約0.8mm 上下します。
- ⑨本機にステープルを装填します。



- ⑩エアホースを接続してさらにテスト打ちをして適正かどうか確認してください。
〈図 -20〉

- ⑪適正であれば調整完了です。不適正であれば以上の手順をくり返してください。
- ⑫適正状態が得られない場合はエアコンプレッサの空気圧を調整してください。



⚠ 警告

- 0.8MPa (約 8kgf/cm²) を超えた圧力では絶対に使用しない。

10 ステープルづまりの直し方

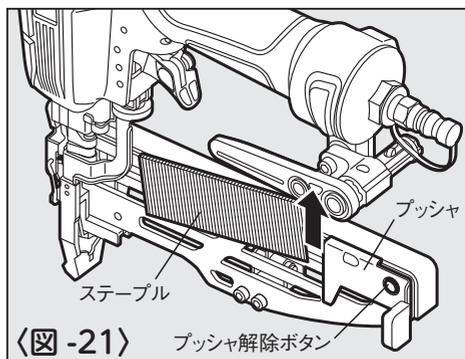
⚠ 警告

- ステープルづまりを直す時は、必ずエアホースをはずす。

手順

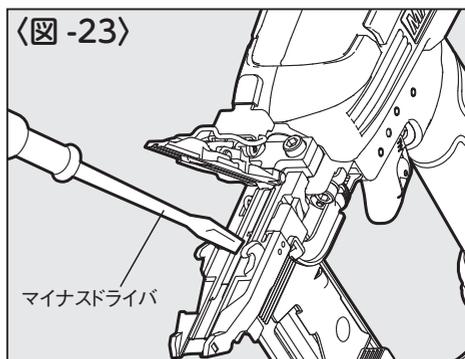
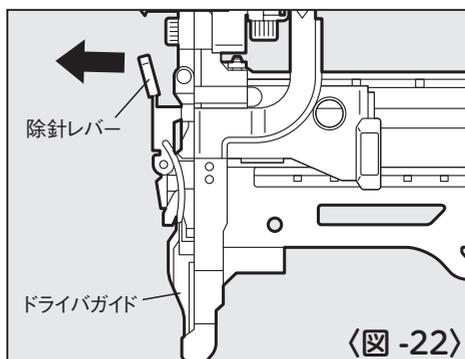
- ①エアホースをはずします。
- ②プッシャを引き下げプッシャ解除ボタンに固定し、ステープルを取り出します。

〈図 -21〉



- ③除針レバーを引っ張りドライバガイドを開き、詰まっているステープルを取り除きます。

〈図 -22〉 〈図 -23〉



11 性能を維持するために

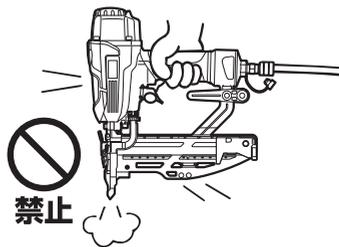
①本機を大切に使う

落したり、ぶつかけたり、叩いたりしますと、変形、亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落したり、ぶつかけたり、叩いたりしないでください。



②空打ちをしない

ステープルを装填しないで空打ちをくり返し行うと、破損したり、各部の耐久性が低下しますのでさけてください。



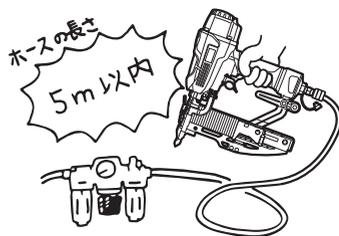
③エア圧力を調整し、使用する

打込対象物に合わせ必ず空気圧を調整し、使用してください。対象物に対して空気圧が高すぎるまま使用しますと各部の耐久性が低下しますのでさけてください。



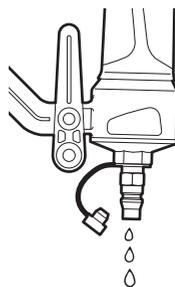
④エアセットを使用する

エアセットを使わないとエアコンプレッサ内の水分やゴミが本機内に入り、錆や摩耗が発生して作動不良の原因になります。なお、エアセットから本機までのエアホースは長すぎると圧力低下となりますので5m以内にしてください。



⑤本機の水抜きをする

作業終了時エアプラグを下に向け十分水抜きしてください。



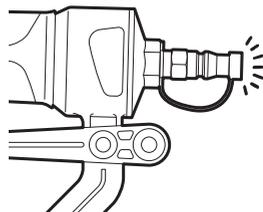
⑥指定オイルを注油する

オイルはタービン油 2 種 ISO VG32 (JIS K 2213) を必ずお使いください。使用前使用後にエアプラグの口より約 5 滴注油してください。指定外のオイルを使用しますと、能力低下や故障の原因となります。



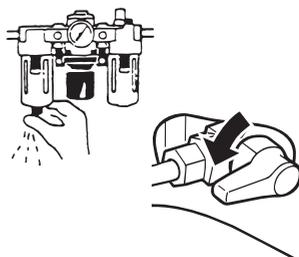
⑦エアプラグキャップの使用方法

本機を使用しないときには、機械内部にゴミなど入ると故障の原因となりますので、本機を使用しないときはエアプラグにキャップを装着してください。



⑧エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタの水抜きをする

エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタに水がたまると能力低下や故障の原因となりますので定期的に水抜きをしてください。



⑨定期的に点検する

本機の性能を維持するために清掃、点検を定期的に行ってください。定期点検は、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジンニアリング&サービスファクトリー(株)へ、お買い上げの販売店を通じてお申し付けください。

12 保証、アフターサービスについて

【保証について】

- 本機には保証書（外箱に添付）がついています。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 本機の基本保証期間はご購入日より1年間です。
「お客様登録カード」にて登録手続きしていただいたお客様に限り、保証期間が2年間となります。

【アフターサービスについて】

- 本機の調子が悪いときは、すぐに使用を中止してください。修理の際は、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング&サービスファクトリー(株)へ、ご購入の販売店を通じてお申し付けください。
- 保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理は、修理によって機能が維持できる場合に、ご要望により有償修理させていただきます。



本社・営業本部 〒103-8502 中央区日本橋箱崎町6-6 TEL(03)3669-8121

支店・営業所

札幌支店	〒060-0041	札幌市中央区大通東6-12-8	TEL(011)261-7141
仙台支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL(022)236-4121
盛岡営業所	〒020-0824	盛岡市東安庭2-10-3	TEL(019)621-3541
新潟支店	〒955-0081	三条市東裏館2-14-28	TEL(0256)34-2112
東京支店	〒103-8502	中央区日本橋箱崎町6-6	TEL(03)3669-8118
水戸営業所	〒310-0043	水戸市松ヶ丘2-3-27	TEL(029)255-3761
群馬営業所	〒370-0031	高崎市上大類町412	TEL(027)353-7075
長野営業所	〒399-0033	松本市笹賀8155	TEL(0263)26-4377
柏営業所	〒277-0871	柏市若柴297-12	TEL(04)7132-1500
千葉営業所	〒284-0001	四街道市大日1870-1	TEL(043)422-7400
名古屋支店	〒462-0819	名古屋市北区平安2-4-87	TEL(052)918-8619
静岡営業所	〒420-0067	静岡市葵区幸町29-1	TEL(054)205-3535
大阪支店	〒553-0004	大阪市福島区玉川1-3-18	TEL(06)6444-2035
京都支店	〒612-8414	京都市伏見区竹田段川原町195	TEL(075)645-5061
神戸営業所	〒650-0017	神戸市中央区楠町6-2-4	TEL(078)367-1580
広島支店	〒733-0035	広島市西区南観音7-11-24	TEL(082)291-6331
福岡支店	〒812-0006	福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL(092)411-5416
南九州営業所	〒891-0115	鹿児島市東開町3-24	TEL(099)269-5347

販売関係会社

埼玉マックス	〒331-0823	さいたま市北区日進町3-421	TEL(048)651-5341
横浜マックス	〒241-0822	横浜市旭区さちが丘7-6	TEL(045)364-5661
多摩営業所	〒190-0022	立川市錦町5-17-19	TEL(042)528-3051
金沢マックス	〒921-8061	金沢市森戸2-15	TEL(076)240-1873
岡山マックス	〒700-0971	岡山市野田3-23-28	TEL(086)246-9516
四国マックス	〒761-8056	高松市上天神町761-3	TEL(087)866-5599

マックスエンジニアリング&サービスファクトリー

本社・高崎サービスステーション	〒370-0031	高崎市上大類町412	TEL(027)350-7820
埼玉サービスステーション	〒331-0823	さいたま市北区日進町3-421	TEL(048)667-6448
札幌サービスステーション	〒060-0041	札幌市中央区大通東6-12-8	TEL(011)231-6487
仙台サービスステーション	〒984-0002	仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL(022)237-0778
名古屋サービスステーション	〒462-0819	名古屋市北区平安2-4-87	TEL(052)918-8624
大阪サービスステーション	〒553-0004	大阪市福島区玉川1-3-18	TEL(06)6446-0815
広島サービスステーション	〒733-0035	広島市西区南観音7-11-24	TEL(082)291-5670
福岡サービスステーション	〒812-0006	福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL(092)451-6430

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。

●マックスお客様ご相談ダイヤル(無料)0120-228-358

月～金曜日 午前9時～午後6時

『ナンバーディスプレイ』を利用しています。

